

修学旅行で酪農を体験  
グリーンツーリズム初の受入れ

神奈川県立平塚農業高校初声分校の生徒34人(男22・女12人)と教職員4人が、9月23日に修学旅行での実習体験のため、津別町を訪れました。津別町グリーンツーリズム運営協議会(矢作芳信会長)と町では、各農家と受け入れの準備を進めてきました。

生徒たちは23日夕方に津別に到着し、中央公民館での受入式に臨み、矢作会長から「修学旅行生の受け入れは初めてですが、楽しんでください。気合を入れて頑張りましょう」と挨拶。

翌日の起床は午前4時過ぎと早く、町内12戸の酪農家に分かれて体験がスタート。各農家から指導を受け、餌やりや搾乳、牛舎清掃などの仕事を体験しました。生徒の竹内研人くんは「緊張したけれど、とてもおもしろかった。とにかく広さに感動しました」と話していました。



新鮮野菜を求めて多くの人が  
賑わったJAつべつ感謝祭



今年も大盛り上がり！カレー早食い競争！

毎年恒例の「JAつべつ感謝祭」が10月12日、活汲事業所前で開かれ、多くの人出で賑わいました。

会場では、餅まきやジャンケン大会、お楽しみ抽選会など多彩なイベントが催され、屋台には焼き鳥をはじめ津別産牛肉やコロッケ、うどん、そばなどに長蛇の列ができていました。

大根や白菜、キャベツなど格安で販売するコーナーには、早朝から我先にと買い求める人で溢れ、また、じゃがいもと玉ねぎの詰め放題にも多くの人が集まっていました。昨年に引き続き行われた大盛りカレーの早食い競争では、流し込むような大胆な食べ方に会場から笑い応援の声が上がっていました。

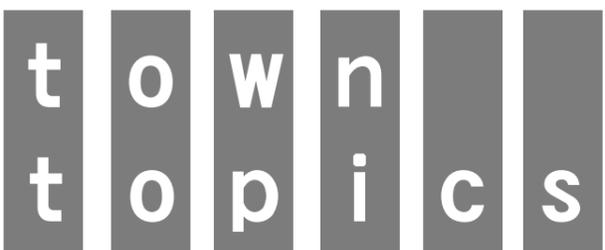
助け合いの心が育つまち  
今年も賑わったふれあい広場



9月28日、つべつふれあい広場(津別町社会福祉協議会主催)が開催されました。高齢者や障害者の社会参加や地域住民とのふれあいによって、隔たりのない温かい社会を育てようと開かれているもので、今年で17回目を迎えました。

当日は秋晴れとなり、中央公民館前庭には焼き鳥や豚汁などのほか、スマートフォンや介護用品の展示販売、リサイクル品を提供するテントなどが並びました。

ロビーでは友愛セール(更正保護女性会主催)が開かれ、寄せられた衣類や家庭用品に人が集まり、また、ステージでは津別中学校吹奏楽部や活汲小中学校のリコーダー演奏が行われ、大勢の人で賑わいました。



まちのわだい

環境保全・地域との連携に  
継続的な事業への支援を受ける

10月2日、LPガス販売のオホーツク・エア・ウオーターエネルギー株式会社の小池隆志社長ほか3人の役員が町長室を訪れ、町に30万円の寄付をいただきました。これまで同社は、エネルギー事業を行う立場として地元自治体と連携を図り、環境保全や地域に貢献できる事業に取り組んでいて、町に対して継続的な支援の申し出があったところで、町では、花のまち推進協議会や街並づくり推進会議が事業を進めている「花いっぱい運動」や上里森林公園の植樹事業に充てることとし、



支援をお願いするようになりました。佐藤町長からは「ご支援に感謝します。有益に活用させていただきます。お礼の言葉を述べていました。」

10月12日、中央公民館で総勢70人によるリコーダーセミナーコンサートが開催されました。

前日まで、プロの演奏家である金子健治氏など4氏を迎えてセミナーが行われ、近隣町を含め小学生、一般合わせて70人ほどが参加。パートごとに指導を受けてコンサート本番に臨みました。コンサートでは、プロの指揮の下、初級と上級のコース各3曲を演奏。続いて70人全員でパッパやブラームスの曲とアニメ主題歌を合奏し会場からは盛大な拍手が送られていました。第2部ではプロの演奏が行われ、澄んだ音色がホールに響きわたっていました。



やさしい音色に魅了される  
リコーダーセミナーコンサート

文化を吸収して次のステップに  
ニュージーランド研修出発式



文化を吸収して次のステップにニュージーランド研修の出発式が10月7日に町長室で行なわれました。10月15日から10日間の日程でホストファミリー宅でホームステイをしながら研修を行います。参加したのは津別高校生の景川岳志さん(3年)、柏葉直哉さん(1年)、横山花鈴さん(1年)、森脇彩可さん(1年)、石川紗耶華さん(1年)の5人で、参加者からは「日本との文化の違いを学びたい」「英語がどこまで通じるか試したい」「(石川さん)などと抱負を述べていました。

粘り強くゴールを目指す  
津別高校生による強歩大会



10月11日、津別高校で今年46回目となる強歩大会が開催されました。大会当日は、心配された雨も明け方には回復し、全校生徒163人が上里で折り返す男子33キロ、女子25キロのコースに挑みました。大会は午前9時に男子が、続いて15分遅れで女子がスタート。生徒たちは途中、約6キロごとに設けられた関門でチェックを受け、沿道で激励する保護者たちの声を受けながら、ひたすらゴール目指して進んでいました。

「つべつ紅葉マラソン大会」が10月5日開催され、去年を上回る315人がエントリーし、日頃鍛えた健脚を競いました。7回目となる今回は、4歳の幼児から最高齢は88歳までが参加。町内外のスポーツ少年団や職場、家族での挑戦など3キロ、5キロ、10キロ、ハーフに分かれ、色づき始めた紅葉を見ながら、爽やかな汗を流し、力走していました。ゴールの後には、スタッフ手作りのカレーライスがランナーたちに振る舞われ、マラソンの達成感と一緒に美味しく味わっていました。



秋を楽しみながら健脚を競う  
第7回紅葉マラソン大会開催